

町政執行方針

3月1日に招集された平成24年第2回栗山町議会定例会で
椿原紀昭町長が平成24年度町政執行方針を明らかにしました。
その全文を紹介いたします。



将来に希望の持てる 活力あるまちづくり

平成24年第2回栗山町議会定例会の開会に当たり、新年度の町政執行に臨む所信を申し上げます。
はじめに、3・11東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、今なお不自由な暮らしを余儀なくされている多くの被災者皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

私も被災地に実際に赴き、想像を絶する変わり果てたまちの姿を目の当たりにし、「町民の生命と生活を守る」ことが、行政最大の責務と改めて痛感するとともに、歴史と伝統ある栗山の町政を担う責任の重大さに身の引き締まる思いを強くしているところであります。

本年度は、私が町民の皆さん、議員の皆さんの温かいご支援を賜り、町政の舵取りを担わせていただいたことから、2期目の折り返しの年に当たります。

就任以来、多くの課題を町民の皆さんとともに乗り越え、常に町民と地域に軸足を置き、各施策を推進してまいりました。

お約束してきた「5つの宣言」と「10のチャレンジ」をさらに推進するため、引き続き我がふるさと栗山が持つ無限の可能性に、心新たに取り組み決意であります。

今、我が国は、戦後最大の危機に直面しております。

東日本大震災と福島第一原発の重大事故による影響は、国内外に波及し、私たちの日常生活はもとより、産業・経済など、あらゆる分野で我が国の進むべき道が模索されております。

私たちを取り巻く社会環境も、人口減少、少子高齢化、そして自然環境問題など大きな試練の時を迎えております。

このような時だからこそ、決してひるむことなく、地方から希望と活力ある幸福の道を見出し、志高く、新しい未来に立ち向かう気概が必要であると考えております。

我がふるさと栗山に、先人から脈々と受け継がれている伝統と文化を礎に、3つの力「栗山力」・「共生力」・「町民力」に磨きをかけ、町民の皆さんが将来に希望の持てる活力あるまちづくりを進めます。

これまでの「醸成」そして「飛躍」の時を経て、さらなる「安定と充実」を求める新年度の町政執行に当たり「3つの基本目標」を掲げ、取り組みます。

3つの基本目標

「輝き」

1点目は、「輝き」を放つまちづくりの推進です。
大震災の影響や長引く景気低迷に

はだかるさまざまな課題に、勇気を持って参加・主導・主体へ、一歩踏み出す真の協働社会を目指し、次の世代へつなぐ「絆」が広がるまちづくりを進めます。

みんなが主役のふるさとづくり

町民・地域・行政

以下、本年度の主要施策の概要を、「栗山町第5次総合計画」におけるまちづくりの基本目標に沿って申し上げます。

◆住民自治

・栗山の地が将来にわたって町民すべての心のふるさとであり続けるため、人や地域をつなぐ「絆」を強め、支え合いと活気のある地域を創出する、まちの仕組みづくりを進めます。

○今年の約束

・自治区の全町設置に向け、引き続き取り組みます。
・NPO（特定非営利活動法人）に関する相談機能を充実します。

◆町民参加と協働

・これまで積み重ねてきた栗山ならではの実践を基に、「くりやまの自治基本条例をつくる会」とともに「自治基本条例」を制定し、真の協働のまちづくりを進めます。

○今年の約束

・「自治基本条例」の制定に向け、町民会議を設置します。



くりやまの自治基本条例をつくる会の会議風景

学習」の充実、低炭素型社会の実現を目指す「炭化処理施設」の効率的な運営、再生可能エネルギー資源を活用した「住宅用太陽光発電システム」の設置助成など、人と自然の「共生力」をさらに充実させる施策を展開してまいります。
先人が守り育ててきた美しく豊かな自然環境を、発見から保全・活用へ、次代を担う人材を育て、引き継いでいくという使命を強く心に刻み、栗山が誇る「価値」を磨き高めるまちづくりを進めます。

「信頼と絆」

3点目は、「絆」が広がるまちづくりの推進です。
地域のことは地域で決める地域主権改革が進展する中、栗山の輝かしい未来を願う町民皆さんの想いを、次代につなげていくためには、人や地域の絆の広がりが必要であると考えます。

情報共有と町民参加を基本とし、ふるさとに誇りと愛着の持てる町政運営の基本原則を定める「自治基本条例」の制定、町民一人ひとりが、まちづくりに積極的に参画する新たな住民自治の仕組みづくりなど、未来を展望する「町民力」をさらに充実させる施策を展開します。

町民一人ひとりが新しい公共を担う自覚と責任を認識し、今後、立ち

「価値」

2点目は、「価値」を磨き高めるまちづくりの推進です。

地球温暖化をはじめ、世界規模で環境問題が深刻化する中、これまで培ってきた豊かな自然環境の保全・再生に向けた取り組みを推進することが重要であると考えます。

ハサンベツ里山地区をはじめ地域特性を活かした「ふるさと自然体験

・まちづくり100人委員会の取り組みを引き続き支援します。

◆**行政運営**
・町民皆さんとの情報共有を基本とし、これまでの前例や形式にとらわれることなく、時代の潮流と町民ニーズをしっかりと見極め、町民から信頼されるよう進めます。

○**今年の約束**
・外部評価制度の充実に取り組みます。
・財政モニター制度を導入します。

◆**行財政改革**
・一つの経営体としての理念を持ち、次の世代に歴史のたすきをつなぐという責任の下、揺るぎのない行財政基盤の構築に向け、たゆみなき改革に取り組みます。
・不誠実な滞納者に対し、引き続き滞納の解消と租税負担の公平性の確保に向けた厳正な対策を講ずるとともに、納税者の利便性の向上を図ります。

○**今年の約束**
・がんばる栗山プラン21を着実に推進します。
・町税などのコンビニエンスストア納付を開始します。
◆**広報広聴活動**
・「広報くりやま」や「町ホーム

ページ」などを通じて、より速く、わかりやすい行政情報を提供してまいります。

・まちづくり懇談会を開催し、より多くの町民皆さんとの対話の機会を広げ、町民ニーズの把握に努めます。

○**今年の約束**
・「まちづくり懇談会」を開催します。
◆**役場組織**
・質の高い町民サービスを提供するため、職員が能力を最大限に発揮できる組織づくりを進めます。

○**今年の約束**
・組織・機構などの見直しに向けた検討を進めます。

◆**職員の育成**
・地域主権時代に即応し、多様な住民ニーズに、迅速・的確に応えられる職員を目指すため、積極的に職員研修を進め資質向上を図ります。

◆**広域行政の推進**
・行政運営の効率化と町民サービスの向上に向け、地域の将来像をしつかりと見据え、関係自治体との広域連携に向けた協議を進めます。

○**今年の約束**
・近隣4町による広域連携に向け、引き続き協議します。

安心して暮らせるまちづくり

医療・保健・福祉

発電システム」の設置に対し助成を行い、住民意識の高揚を図ります。

○**今年の約束**
・引き続き街路灯や防犯灯のLED（発光ダイオード）化を推進し、環境に配慮します。

◆**消防行政**
・町民の安全・安心の確保を最優先とし、災害発生時に迅速・的確に対応できる体制を維持します。
・町民の安全と財産を守るため、住宅用火災警報器の設置を強く促進するとともに、広報活動や火災予防査察を通じて防火意識の高揚を図ります。
・各事業所や町民を対象とした救急講習会の充実に努め、医療機関と連携し、救命率の向上を図ります。

○**今年の約束**
・高規格救急車を更新します。
・イベントなどにAED（自動体外式除細動器）を貸出します。



各地で開催されるAED講習

◆**防災**
・東日本大震災を受け、国や北海道で防災計画の見直しが進められる中、「栗山町地域防災計画」を大幅に見直し、防災対策全般の充実を図ります。

○**今年の約束**
・自主防災組織の設置促進に向け、地域などの協議を進めます。
・実践的な防災訓練を実施します。

◆**交通安全対策**
・交通安全施設の整備を進めるとともに、交通安全協会など関係機関・団体と連携し、高齢者を重点に交通安全の普及啓発に努めます。

◆**防犯対策**
・家庭・地域・学校さらに防犯協会や暴力追放運動推進協議会など関係機関・団体と連携し、暴力団排除の機運を高めます。

◆**消費者対策**
・巧妙化する悪質商法やインターネットを介した架空請求、貴金属の押し買いなど、消費者が巻き込まれるケースが後を絶たないことから、今後も消費者協会と連携し、さまざまなトラブルや相談に対応します。

○**今年の約束**
・4町の広域消費者相談業務を継続します。

人と自然にやさしく暮らせるまちづくり

生活・環境

町民参加による自然環境の保全・再生および自然保護活動を推進し、ふるさと栗山の豊かな自然環境を活かした環境教育のまちづくりを進めてまいります。

また、豊かな自然を後世へと引き継いでいくため、再生可能エネルギー資源の活用や地域循環型社会の実現に向けた取り組みを推進します。

◆**自然環境**
・ハサンベツ里山20年計画事業をはじめ、町民主体による自然環境の保全・再生活動や、国蝶オ



ふるさと体験教育の充実を図ります

オムラサキの育成保護活動を引き続き支援します。
・雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスなどを拠点とする「ふるさと自然体験教育プログラム」を一層充実させ、環境意識の高揚を図ります。

○**今年の約束**
・自然体験教育プログラムの充実を図ります。
・ふるさと自然体験教育に幼児を対象とします。

◆**環境衛生**
・低炭素型社会の実現を目指して、ごみの再資源化を推進します。
・分別をさらに徹底し、埋立量の減量化による最終処分場の延命を図るとともに、「炭化処理施設」の効率的な運営に努めます。

○**今年の約束**
・ごみ分別の徹底により、最終処分場の延命を図ります。

◆**環境保全**
・再生可能エネルギー資源の利用を促進するため、「住宅用太陽光

人口減少・少子高齢化が進展する中、持続可能な保健・医療・福祉・介護サービス体制を構築し、すべての町民が生涯にわたり、健康で生きがいのある生活を送ることができるよう、温もりあふれる地域づくりを推進します。

また、安心して子育てができる環境の整備・充実を図るとともに、「まちの宝」である子どもたちの健全な成長を、地域全体で守り育てるまちづくりを目指します。



安心して子育てができる環境を整えます

◆**予防医療**
・特定健診の意識啓発の一環として、連続受診者および若年層に無料で受診できる機会を設定し、受診率の向上を目指します。
・次代を担う子どもたちの健康を守るため、子宮頸がん、小児肺炎球菌、ヒブ、水ぼうそう、おたふくかぜ予防接種費用の全額助成を継続します。

○**今年の約束**
・第2期栗山町特定健康診査等実施計画を策定します。
・子宮頸がん、小児肺炎球菌、ヒブ、水ぼうそう、おたふくかぜ予防ワクチン接種費用の全額助成を継続します。

◆**地域医療**
・町民の疾病構造に対応した地域医療体制づくりを目指すとともに、超高齢社会を見据えた保健・医療・福祉・介護の連携を図ります。

救急医療には、町内各医療機関との協力体制を築くとともに、町民の救急医療の適正な利用に向けて、より一層の啓発をします。

人々が輝くふるさとづくり

教育・文化・スポーツ

◆北海道介護福祉学校

- ・ 建学の精神と教育目標を大切に
する学校経営に努め、積極的な
学生募集を進めるとともに、確
かな知識と技術、豊かな感性を
身に付けた、今日の社会が求め
る優れた人材を育成します。
- ・ 先進国であるフィンランドとの
研修交流事業を継続します。

○今年の約束

- ・ フィンランドとの研修交流事業
を継続します。
- ・ 介護福祉学校周辺を整備します。



栗山の福祉政策の出発点。町立北海道介護福祉学校

幼児から高齢者まで、生き生きと意欲的に学ぶことができる教育環境を一層充実するため、学校・家庭・地域の連携・協働による取り組みを進めます。以下、教育委員会の方針を尊重し、教育施策を推進します。

◆学校教育

- ・ 「ふるさと栗山でしっかり学び、生き生きと活動する子ども」を主題に、地域の連携・協働による栗山の教育の推進を図り、一人ひとりの子どもをしっかり育てる教育を進めてまいります。
- ・ ふるさと体験を核とする「栗山のふるさと教育」の一層の充実を図ります。

○今年の約束

- ・ 特別支援教育支援員の配置を継続します。
- ・ 小学校のフツ化物洗口を継続します。
- ・ 小中学校に校務支援システムを導入します。
- ・ 電子黒板を継続導入します。
- ・ 中学校の配置問題に引き続き取り組みます。

元気で活力あるふるさとづくり

産 業

◆農業生産基盤の整備

- ・ 農業収益性の向上を図るため、基盤整備事業を促進します。

○今年の約束

- ・ 杵臼地区の道営基盤整備を継続します。
- ・ 南角田地区・継立地区の道営基盤整備を実施します。

◆林業の振興

- ・ 森林組合と連携し、「栗山町森林整備計画」に基づく公益的機能の維持・増進を図るため、適正な森林の整備を促進します。

○今年の約束

- ・ 美しい森林づくり基盤整備事業を継続します。
- ・ 未来につながる森づくり推進事業を継続します。

◆工業の振興

- ・ 町振興資金をはじめとする独自の融資支援策を継続し、企業の資金需要に迅速な対応を行うなど、安定的な企業経営を支援します。
- ・ 道内企業の立地意向調査リストにより、企業への訪問活動を積

- 今年の約束
- ・ 保健・医療・福祉・介護の連携による地域包括ケアシステムを構築します。
- ・ 栗山赤十字病院に対する支援を継続します。

◆地域福祉

- ・ 町民の皆さんが安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指し、社会福祉協議会など関係機関・団体と連携し、町民主体の地域福祉ネットワークづくりに取り組みます。
- ・ 社会福祉協議会による「在宅サポーター事業」や「ケアラー（介護者）事業」を支援します。

○今年の約束

- ・ 町民主体の地域福祉ネットワークづくりを進めます。

◆児童福祉

- ・ 「栗山町次世代育成支援行動計画」のさらなる推進のため、昨年度開設した「子ども・子育て心の相談室」をはじめ、総合的な子育て支援体制の整備・強化に取り組みます。
- ・ 医療保険が適用されない高度な不妊治療を受けられる方に治療費の助成を継続してまいります。

○今年の約束

- ・ 義務教育終了時までの医療費助成を継続します。
- ・ 不妊治療費の一部助成を継続し

◆社会教育

- ・ 「ふるさと栗山をともに支え合い、未来を築く町民」を主題に、主体的な学習を育てる学習機会の提供に努め、栗山ならではのふるさとづくりを推進します。

○今年の約束

- ・ 栗つ子支援事業を引き続き進めます。
- ・ 農村環境改善センターの耐震診断を実施します。

◆青少年の健全育成

- ・ 青少年育成会など関係機関・団体と連携し、栗山の恵まれた自然環境や教育資源などを活用した事業や協定大学との連携事業を実施します。

○今年の約束

- ・ 体験学校・栗山キッズクラブ事業を充実します。

◆芸術文化振興

- ・ 文化連盟など関係機関・団体と連携し、町民が気軽に芸術文化にふれることのできる機会を提供するとともに、郷土の貴重な文化財の保存・保護に努めます。

○今年の約束

- ・ 開拓記念館特別展示と広報アノ口発行を継続します。

◆図書館運営

- ・ 町民ボランティアや各小中学校と連携し、読書環境と読書活動の充実を図ります。



今年、第 23 回目となる少年ジェット「希望の翼」

○今年の約束

- ・ 小中学校図書室との連携を強化します。

◆社会体育

- ・ 体育協会・スポーツ推進委員会などとの連携により各種事業を推進し、スポーツの振興と環境の整備を図ります。
- ・ 引き続き総合型地域スポーツクラブを支援します。

◆地域間交流や大学連携

- ・ 幅広い実践力のある心豊かであくましい人材を育成するため、地域間・国際交流事業を推進してまいります。
- ・ くりやま地域大学を開講し、専門的な学習機会を提供します。

○今年の約束

- ・ 少年ジェット派遣を継続します。
- ・ くりやま地域大学を継続します。

地域産業の持続的発展を目指すため、本町の基幹産業である農業と各産業との連携を図り、町内外を問わず人と物が行き交う、豊かで活力あるまちづくりを進めます。

◆農業の振興

- ・ TPP（環太平洋経済連携協定）問題など、農業を取り巻く厳しい環境の中、栗山町農業振興公社をはじめ、各農業機関・団体と連携し、本町の農業基盤をしっかりと支え、効率的・安定的な農業経営の確立を図ります。
- ・ 農業振興計画「第3期栗山農業ルネッサンス」に基づき、国の農業政策と整合性を図りながら、戦略プランである「くりやまブランド」の推進、地域を担う「多様な人材」の育成、農地有効利用と土づくりで「農地を守る」の3本の大きな柱を基に各施策を実施します。

○今年の約束

- ・ 美しい農村景観づくりを推進します。
- ・ 新規就農者等支援対策を実施します。

極的に実施するとともに、関係機関との情報交換を緊密に行い、道外企業の誘致活動も引き続き展開します。

○**今年の約束**
・効率的な企業誘致活動を展開します。

◆**商業の振興**

・新規栗山商工会議所と連携し、商店街の空き店舗対策事業や子育て応援事業の支援を継続してまいります。

・賑わいある商店街の核となる「まちの駅栗夢プラザ」の事業支援を行い、集客力の向上と地域に親しまれる商店街づくりを推進してまいります。

○**今年の約束**

・「空き店舗活用支援事業」を継続します。
・「子育て応援事業」を引き続き支援します。

◆**観光の振興**

・不動産の滝の環境整備を進めるとともに、案内看板の新規設置など、観光施設の充実と効果的なPRを推進します。

・早春の風物詩として定着した「くりやま老舗まつり」をはじめとする各種イベントを、各メディアを通じて広くPRを行い、栗山を訪れる交流人口と消費の拡大を図ります。

◆**町営バスの運行**

・利用者の利便性の向上と運行の効率化を図り、町民皆さんの大切な足の確保に努めます。

○**今年の約束**

・デマンド方式による本格運行を実施します。

◆**住環境**

・「栗山町住宅マスタープラン」に基づき、町民の皆さんが安心してより快適に生活できる住環境を目指し、住宅のバリアフリー改修や耐震化率の向上対策を推進します。

・周辺住民などへの危険性が高い、老朽化した空き家の撤去を進めます。

○**今年の約束**

・松栄団地2棟14戸の建て替え、児童遊園、通路整備などを実施します。



計画的に建て替えが進む「松栄団地」

○**今年の約束**

・不動産の滝案内看板を設置します。

◆**栗山ブランドの創出**

・3年目を迎える「栗の活用プロジェクト」を推進するため、引き続き先進地からの技術導入を図るとともに、協定大学や関係機関と連携し、国内最北端の「ブランド栗」の産地化を目指します。

○**今年の約束**

・栗の活用プロジェクトを継続します。



栗を使ったお菓子づくり

◆**移住対策**

・「くりやま移住促進協議会」と連携し、完全移住、二地域居住、短期移住などの多様なニーズに対応した受け入れを行います。

◆**雇用対策**

・国や北海道の支援制度の紹介など積極的な情報提供を行うとともに、ハローワークの協力の下、若年層の就職支援や失業者対策に取り組みます。

○**今年の約束**

・3町合同の職業相談会を引き続き開催します。

・人にやさしい住宅助成事業を実施します。

◆**水道事業**

・水の安定供給と安全確保を図るため、桜山浄水場機器および配水管の更新を進めます。

○**今年の約束**

・桜山浄水場機器および配水管を更新します。

◆**下水道事業**

・会計方式を官公庁会計から企業会計へ移行し、経営の健全化を目指します。

○**今年の約束**

・下水道事業を企業会計に移行します。

◆**河川の整備**

・倒木除去や樹木の伐採などを進め、環境に配慮した河川環境の整備促進を図ります。

・雨煙別川、ポンウエンベツ川、阿野呂川およびボンアノロ川の改修工事の早期完成に向け、引き続き関係機関に要請します。

◆**地域情報化**

・電算室用自家発電機の導入など、情報システムの災害対策を実施します。

快適でやさしい暮らしを創るまちづくり

都市基盤

町民皆さんの生活をより快適なものとし、豊かな自然と都市機能が調和した魅力ある街づくりを進めるため、「栗山都市計画マスタープラン」に基づき、だれもが安心して住み続けることができる環境整備に取り組んでまいります。

◆**街なみ景観**

・ユニバーサル・デザインの観点に立って、町民の皆さんがふるさと栗山の良さを実感できる、魅力的な街なみづくりに向け取り組みます。

○**今年の約束**

・栗山町景観計画を策定します。
・湯地地区環境整備を実施します。

◆**市街地基盤の整備**

・市街地の都市機能をさらに高めるため、新町通街路整備の早期着工を目指し、地元期成会と一体となり引き続き関係機関へ要請します。

・町民や関係機関などの意見を踏まえ、「栗山都市計画マスタープラン」の見直しに向け、検討を進めます。



ロータリー除雪車を更新し冬の交通安全の確保を図ります

○**今年の約束**
・栗山都市計画マスタープランの見直しを進めます。

◆**町道の整備**

・総合的・計画的な整備と維持管理を行い、安全・快適な道路整備を進めます。

・冬期間における道路交通の安全確保を図るため、バス路線などの主要幹線や通学路を優先し、迅速かつ機動的な除排雪を行います。

○**今年の約束**

・湯地継立線・杵白本線の改良舗装を継続します。
・桜丘鳩山線・富士本線の歩道整備を実施します。
・ロータリー除雪車1台を更新します。

今、我が国は、住民、企業やNPOなど、さまざまなまちづくりの主体が、議会そして行政と協働し、現代社会に失われつつある「支え合いと活気のある社会」を築くという「新しい公共」の実現に向け、大きく舵を切ろうとしています。

民主政治の誕生を求めたフランス革命に多大な影響を与えた、フランスの政治思想家ジャン＝ジャック・ルソーは、「国民の意見を大切に、国民の幸福を目指す意志」による公共の利益を指向し、できるだけ多くの国民が政治に参加できるシステムの構築と、常に国民の政治に対する関心を高く維持することの重要性を説いておられます。

この理念こそが、「新しい公共」

の時代をたくましく生き抜いていくうえで、大きな示唆を与えてくれるものと確信しているところでもあります。

「栗山」を愛し、「人」を愛し、「自然」を愛する町民皆さんの参加の下、協働する風土と歴史のネットワークを大切にする、ふるさと栗山の新しい未来に向け、たゆみなき挑戦を続けてまいります。

新年度も引き続き、「ふるさととは栗山です。」を合言葉に、私の政策目標であります「思いやりの心がかような、元気のでるまちづくり」の実現に全身全霊を込め、その先頭に立ち邁進してまいります。町民の皆さん、議員の皆さんの一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

「新しい公共」の時代をたくましく



教育行政執行方針



我が国では、小中学生や青少年の目覚ましい活躍が報じられる一方で、学力や体力、いじめや不登校、児童虐待、家庭や地域の教育力、教育における格差など教育や子育ての問題もたくさんあります。

「子どもは宝」と言われます。本町では、平成22年度から、3小学校の新入学児童数が100名を割り、平成23年度は児童生徒数が1000名を切りました。急激な少子化には驚くばかりです。この少なくなつた子どもたちが、次の代を担います。今世紀に入つてからの急激な社会変化を目の当たりにする時、「子どもたちにどのような力を育てるか」という命題は、次世代育成に責任を持つ私たち大人にとっては重大な宿題です。

教育行政は、これからの社会変化に対応できる資質を育む教育や子育てのより良い環境づくりに全力を傾けるとともに、生涯学習社会にふさわしい諸施策の展開を重要な課題としなければなりません。

本町には、昭和60年の御大師山での国蝶オオムラサキ生息確認以来継承されている自然環境保護・保全や再生の町民活動があり、全国的に注目されております。

栗山のふるさと教育

家庭・地域・学校が力を合わせて取り組まなければならない課題です。体力・運動能力調査結果の活用、食育の推進、フッ化物洗口など、社会教育とも協働し、子どもたちのすこやかなからだの育成に努めます。

4. ふるさと体験の重視

各学校のすべての教育活動で機能させたい目標です。栗山の教師が、「栗山を語る」、「栗山から題材を得た授業をする」、「栗山で生き生きと体験させる」などの教育活動を広く実践するよう促します。「感動を呼ぶ「原体験」で学ぶ意欲を高め、ふるさと栗山の「原風景」を栗つ子に持たせること」が願いです。

また、ふるさと体験を核とする「栗山のふるさと教育」により、子どもたちの「伝える力・伝えあう力・かわりあう力」が高まり、ふるさとを大切にする人に育ってほしいと願っております。



継立中学校のハサンベツ自然体験活動

これらの目標達成のため、実践的施策として充実させたい「6つの指導体制等」と「6つの教育環境等」は以下のとおりです。

充実させたい栗山ならではの6つの指導体制

①特別支援教育支援員8名の配置

学校生活や学習への適応度を高めるあたため、指導を充実させるため、栗山小学校への支援員5人を含め、各校の状況に応じて合計8人を配置します。本町の規模からすると、8名の配置は管内のどこにもない特筆される施策です。平成23年度に成果をあげた特別支援教育推進協議会の実績に立ち、個別の支援計画・指導計画や各学校の支援体制の一層の充実、特別支援教育に関する研修の促進などに取り組み、個別指導の質をさらに向上させます。

②外国語指導助手・ALT複数配置の継続

本町は、ALT導入の平成2年以來、一貫して、2つの中学校にそれぞれ1名ずつのALT配置を継続し、ネイティブな発音に触れる機会を保証しています。中学生の英語コミュニケーション能力の向上はもちろ、平成23年度に本格実施となつた小学校5・6年生の英語活動の一層の充実、さらには、国際理解や異文化理解を深めるため存分に活用し

この町民活動の「ふるさと栗山を大切にする基本姿勢」、「町内外を問わず幅広く連携・協働する活動手法」、「実践活動優先で活路を見出す開拓者精神」は、いずれも教育行政執行に貴重な示唆を与えるもので

合言葉「ふるさととは栗山です。」の

栗つ子が輝く学校教育

ふるさと栗山でしっかり学び、生き生きと活動する子ども

小中学校教育の主題を「ふるさと栗山でしっかり学び、生き生きと活動する子ども」とし、人生におけるさまざまな課題に立ち向かう土台をつくる学校教育の主要な方針について、「4つの目標」を掲げて推進します。

1. 学ぶ意欲と学力の向上

学力向上は学校教育の最重要課題であり、学校教育の生命線は、学力の質的向上を図る教育課程の編成実施です。「読み・書き・計算」に関する基礎的・基本的な知識・技能の習得を徹底できる教育課程、そして、体験的な学びを豊かに採り入れ、学ぶ意欲を高める各学校の特色ある教育課程により、「聞く・話す・考える・調べる」力の向上を図ります。

2. 豊かな心の育成

思いやりや生命の尊さなどを学ぶ「心の教育」は、学校の教育活動全部の総合力で行います。道徳の時間の指導を核に、副読本や心のノートの活用、感動いっぱいふるさと体験など、心に触れる教育活動で豊かな心の育成に努めます。

また、規律ある生活習慣を身に付けた自己の実現を支援する生徒指導も大切です。ふれあいを基とする指導を充実させ、子どもの「かわりあう力」を高めます。豊かな感性や創造性を培う読書活動の推進にも力を尽くします。

3. すこやかなからだの育成

北海道の子どもの健康、特に、体力や運動能力が心配されています。



新しくなった図書館くりくり号！本を満載

ます。

③町立図書館と

各学校図書室との連携・協働 児童図書各学級に巡回させる「ミニくりプロジェクト」、図書館司書を各学校に派遣する「学校図書室ステッアップ事業」、町立図書館と各学校図書室とのオンライン化など、栗山ならではの図書館活動に加え、朝の読書活動、ボランティアによる読み聞かせなど多彩な取り組みにより、子どもたちの豊かな感性や創造性を育みます。

④栗産・栗消を進める学校給食と食育の推進

朝食を摂らずに登校する子どもが少なからずいることや、家庭における基本的な生活習慣の崩れが問題となっており、これが子どもの学力や体力と高い相関関係にあることも指

総合計画が5年目を迎えます。「人々が輝くふるさとづくり」を教育行政の合言葉として、幼児から高齢者まで、生き生きと意欲的に学ぶことができる環境を一層充実させるため、本町教育全体を「栗山のふるさと教育」と銘打ち、地域の連携・協働の取り組みにしよう努めます。

摘されています。学校給食も含めて、子どもたちの食は大切な問題です。

栗山の学校給食は、関係者から高く評価されており、可能な限り地元産物を優先して食材とする努力が続けられていることが大きな理由です。

栗山版「食に関する指導の手引」と栗山流「食育十選（実践）」により、学校での指導や家庭における食育に関する啓発に努めます。また、広域による学校給食センターの在り方の検討も進めます。

⑤教育相談体制の充実と強化

生徒指導の機能が十分に発揮されると、全ての教育活動が良い方向に向かい、子どもたちの全体的な学力が向上します。配置している教育相談員と各学校とのきめ細やかな情報交流による生徒指導支援、子ども・子育て心の相談室や子育て支援関係機関・団体などとの連携強化により、いじめ・不登校や虐待問題をはじめとする生徒指導上の諸課題に切れ目のない取り組みをします。

⑥町民と協働する「ふるさと体験」の一層の充実

この2年間のふるさと栗山自然体験教育事業により、恵まれた自然環境に包まれた子どもたちの歓声が響き、本町教育の目指すところに調う「ふるさとを大切に人々を育む」教育が前進しました。これは、町民・

地域・学校などの緊密な連携と、栗山の子どものために力を出し合った協働の賜です。また、職業観を豊かに育てる2つの中学校の地域体験型キャリア教育も、各種企業などのご支援の下、既に10年以上にわたって続けられています。

次世代育成教育は、町民・地域・家庭・学校・教育委員会の連携・協働にその成否がかかります。本町には連携・協働のための確かな基盤がありますので、関係各位のご理解をいただき、一層の連携・協働の強化に挑戦します。

①専門職である教職員の実践的な力量の向上



栗山小学校 5年生の宿泊研修～夕張川にて

教師は最大の教育環境」です。子どもたちも保護者も町民も「この子を少しでも伸ばしたい」と全力を傾注する情熱に満ちた教師を望んでいます。

教育委員会では次の4つの理想に燃える教師の育成を期し、栗山町教育振興会の研修事業や指定公開研究会事業と校外外における教職員研修の充実を図り、栗山町学校教育人的環境の質の向上を図ります。

(1)子どもの学力を的確に把握する教師

(2)個別指導に力を発揮する教師

(3)教材研究を深め、授業改善に挑戦し続ける教師

(4)地域とのつながりを大切に、広く学ぶ人間性豊かな教師

②基本的な生活習慣形成を促進する啓発活動の推進

「今日もがんばるぞ」。そういう思いで登校する子どもは、一日を意欲的に過ごします。「子どもの精神的安定は家庭から」という学者もいます。次世代育成教育の質の高まりが常に求められる現代にあつては、家庭の教育機能の重要性も増します。家庭の教育機能が高まると、学校教育も質的に向上します。

家庭教育サポート企業等制度の活用や、地域連携・協働による教育の展開により、家庭での基本的な生活習慣の形成をはじめとする家庭教育へ



子どもたちを褒めたたえる「輝け！栗っ子賞」

の啓発を継続し、その質的な向上を目指します。

③地域ぐるみによる安全確保や美化運動の推進

本町には、子どもたちが安心して登校・下校ができるように地域の大人が見守り続けている事例や、児童生徒の通学路をいつもきれいにしている事例があります。子どもにとっては、地域のすべてが広い意味での教育環境であり、安全・安心確保も、町内の美化も大切な教育環境です。地域の教育力の向上を願って、より多くの町民が「栗っ子」に眼を向けるようになるよう尽力します。

④学校施設・設備などの整備

質の高い人的環境と充実した施設・設備は、良い学校教育には欠かすことができない条件であり、学校の施

設・設備には、社会の進展に伴う前進が必要です。小中学校の校務用パソコンの整備、電子黒板の継続導入、改訂・中学校学習指導要領完全実施に伴う教材・備品などの整備を進めます。また、教職員の児童生徒と向き合う時間が少しでも増えることも願い、すべての学校で、校務支援システムの導入をはじめます。

⑤「ふるさと」の学校」にする環境づくり

子どもをより良く育むには、学校と家庭と地域とがそれぞれの責任を果たしつつ、協働することが大切で、教育の質は、学校・家庭・地域三者の総合力そのものです。地域公開参観日、学校教育情報学校だよりの町内回覧、学校評議員からの提言など、これまでの実績に立ち、5つの小中学校が保護者や町民との関わりを強めて、ふるさと栗山の学校として存在感を発揮、「我がここにあり」と自信をもって教育活動を進めることができるよう、努めます。

⑥急速な少子化に伴う学校配置の検討

少子化に伴う町内の学校配置については、平成23年度に指針を示したところですが、平成24年度は、本町における中学校の配置問題に多くの町民の皆さんのご意見をいただきながら、教育委員会としての結論を見出すこととします。

◆北海道介護福祉学校

昭和63年4月の開校以来25年目を迎える北海道介護福祉学校は、北海道内唯一の町立介護福祉士養成校として1840余名の有為な人材を輩出、その活躍ぶりと業績が各地の職場で高い評価を受け、介護福祉士養成校として確固たる地位を築いてまいりました。

我が国では、急速な高齢化社会の到来とともに、より高い資質を備えた介護福祉士の養成が急務ですが、法律改正による平成27年度卒業生からの介護福祉士国家試験制度の導入、介護福祉士の社会的低評価や処遇改善の遅れ、長引く経済不況などにより、介護福祉士養成校への進学志願者減が続き、定員確保に苦慮するところとなっており、本校も例外ではありません。



確かな介護技術が学べる北海道介護福祉学校

このような状況に対応するため、平成22年度、「北海道介護福祉学校の運営に関する検討委員会」を設置し、平成23年度より、今後の定員確保のための抜本的な短期・長期的な経営方針の検討・協議を本格的に進めてまいりました。

その中間報告での提言に基づき、まず、学生確保対策として次のとおり推進します。

①進学希望する高校生などへの周知・宣伝のための学校ホームページの充実や広告対策を推進します。

②本校の教育環境を充実させるため、学校周辺の道路・建物の環境整備を2カ年計画で実施します。

以上2つの学生確保対策と併せて、平成24年度は、次の方針により北海道介護福祉学校の経営の充実に努めてまいります。

(1)本校の特色、唯一の公立学校であるという安心感と安定感、教授力・指導力の高さ、女子寮の完備、就職率100%継続の実績、全道各地で活躍する本校卒業生の評価の高さなどをうったえる一日体験入学会の充実(年6回開催)や進学相談会並びに高等学校訪問を強化します。

(2)国家試験対策の充実強化をはじめとし、学生個々に応じた指導の徹底を図り、確かな知識と技術、豊

かな感性を身に付けた介護福祉士の養成に努めます。

(3)4名の学生を派遣し、福祉先進国フィンランドとの研修交流事業の充実を努めます。

(4)開校以来の就職率100%の維持

町民が輝く社会教育

ふるさと栗山をともに支え合い、未来を築く町民

「人々が輝く栗山のまちづくり」として、栗山らしい生涯学習社会の環境づくりを担う社会教育の役割は重要です。町民が豊かに学び、その成果を活かすことのできる環境を一層充実させるため、主題を「ふるさと栗山をともに支え合い、未来を築く町民」とし、「主体的に学ぶ姿勢・豊かな人間性・健康な身体・栗っ子支援」を高める社会教育を推進します。本年度は「4つの重点」で執行します。

1. 主体的な学習を育てる学習機会の提供

自ら学ぼうとする姿に、生涯学習社会の出発点があり、町民の主体的学びが、「栗山ならではのふるさとづくり」を前進させます。町民の多様な学びの場面設定を通じて、幼児から高齢者まですべての町民が「ふるさとづくり」への意識を高めること

継続に向け、積極的な取り組みを努めます。

(5)地域に開かれた学校づくりを目指し、地域住民のみならず小中学校、高等学校および関係機関との連携による諸事業の推進に努めます。

ができるよう尽力します。以下、2つの方針で臨みます。

①栗山ならではの連携・協力による栗っ子の育成

基本的な生活習慣や社会のマナーなどを身に付ける幼児期からの家庭教育は、人としてのより良い発達や成長を左右します。家庭教育サポート企業等制度の活用をはじめとして、地域教育協議会や関係機関・団体との協力・連携の下、幼児教育・家庭教育への啓発を継続し、栗っ子の発達や成長を支援します。

②栗山ならではの各種社会教育活動や町民の学びへの支援の充実

町民のニーズに基づく学びへの支援、地域総ぐるみによるふるさと教育活動への支援、各種社会教育団体との連携、生涯学習の情報提供、協定大学との連携による専門的な学習機会の提供など「ふるさと」は栗山で

教育委員会の決意

平成 23 年の世相を表す漢字に「絆」が選ばれ、たくさんの共感の声がありました。大震災に遭ったある地域の方が、「ふるさとの強い絆に救われ、そのありがたさが身にしみた」と述べておられたのが印象的でした。



私たちの栗山町には、町民が積み上げてきました外に誇り得る「連携や協働というふるさと栗山の絆の力」があります。

教育委員会は「ふるさとは栗山です。」と胸を張って次世代にバトンタッチすることができるような「まちづくり・ふるさとづくり」の一翼を担い、教育や子育てに携わる大人が、子どもにとっては「大切にかけがえのない教育環境なのだ」という自覚を持つこと」を大原則にし、「人々が輝くふるさとづくり」に取り組みます。

私たち 5 名の教育委員は、平成 19 年度から「行動する教育委員会」を謳い、「町民に見える教育委員会」を目指してまいりました。本年度も、栗山の教育や子育てに携わるすべての人、すなわち、人的環境の質的向上を目指し、町民の連携と協働による学校教育、社会教育推進の要となるよう「行動する教育委員会」の初心に立ち、「ふるさとは栗山です。」にふさわしい教育行政推進に努めてまいります。

本町には、各種の地域間・国際交流事業があります。これらの事業を通じて最も驚くのは、派遣された青少年の派遣前と派遣後の様子ががらりと違うところです。自信なささうで、人前での挨拶にもぎこちなさがある派遣前、原稿なしの自分の言葉で堂々と挨拶や報告をする派遣後、感動的ではありません。

少年ジェット派遣、姉妹都市角田市との交歓のついで、協定大学をはじめとする学生の体験交流の推進など、地域間・国際交流事業により、たくましい実践力のある視野の広い青少年の育成を図ります。

① 町民参加による自然環境の保全・再生への支援や、自然環境教育の推進

国蝶オオムラサキ育成保護、ハサンベツ山 20 年計画事業、ふるさといきもの里フォーラムなど、町民の自主的な環境保全・再生に関する事業への支援を通じて町民の自然環境に関する意識の高揚を図ります。

② ふるさと栗山の環境を活かした「ふるさと体験」の推進

平成 23 年度は、ハサンベツ地区・ファアブルの森・夕張川などの身近な自然環境を活用し、栗山ならではの五感総動員の「原体験」による「ふるさと自然体験教育事業」を充実させました。

子どもたちが、栗山の豊かな自然環境の下で学び、ふるさとに愛着や誇りを持つて、心豊かにたくましく成長することを願い、この 2 年間積み上げた「ふるさと自然体験教育事業」の質を高め、自然環境教育を含めた「ふるさと体験教育」さらには、「ふるさと教育」へと発展させるよう邁進します。

また、新たに、小学校入学前の幼

③ 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスを拠点とするふるさと体験プログラム

旧雨煙別小学校が再生され本格始動してからやがて丸 3 年になりま



す。町内の学校教育に限って見ても、子どもたちが栗山の豊かな自然環境の下で学ぶ際には、なくてはならない重要な教育拠点施設となっており、ここを拠点とする「ふるさと体験プログラム」は、教育プログラムとして町内外教育関係者に知られるようになりました。平成 24 年度は「ふるさと教育」の質を一層高めるため、町民・学校との連携・協働により、「ふるさと体験プログラム」の充実を図ります。

また、施設や周辺環境整備への支援や公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団との連携などにより、交流人口の拡大に尽力します。

④ 地域間・国際交流による青少年の育成「ふるさと体験」の推進

本町には、各種の地域間・国際交流事業があります。これらの事業を通じて最も驚くのは、派遣された青少年の派遣前と派遣後の様子ががらりと違うところです。自信なささうで、人前での挨拶にもぎこちなさがある派遣前、原稿なしの自分の言葉で堂々と挨拶や報告をする派遣後、感動的ではありません。

少年ジェット派遣、姉妹都市角田市との交歓のついで、協定大学をはじめとする学生の体験交流の推進など、地域間・国際交流事業により、たくましい実践力のある視野の広い青少年の育成を図ります。



ハサンベツ川の生き物調べ

① 図書館を生涯学習の重要な拠点とする事業の推進

平成 23 年度策定の「栗山子ども読書推進計画」に基づき、これまで培ってきた小中学校との協働をさらに強めて栗山の子の読書活動を充実させます。また、備品の継続的な整備を図り、「町民により身近な図書館づくり」に努め、町民の読書活動推進に尽力します。

② 芸術文化振興の環境づくりと主体的町民活動への支援

栗山には、町民主体の歴史ある鑑賞事業をはじめとする芸術・文化事業が数多くあります。町民の自主的・主体的な芸術文化活動や芸術創造のまちづくり事業などへの支援をすることも、町民が気軽に芸術文化にふれることができるよう、文化連盟などの関係団体と連携・協働し、その環境づくりに努めます。

③ ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用の促進

先人の苦難と栄光の足跡に多くの教訓を得ながらまちづくりを進めて来た本町には、たくさんの貴重な文化財や史跡などがあります。開拓記念館や泉記念館をはじめとする拠点施設を中心に、文化財の保存・保護に力を尽くしている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。

また、栗山町内史跡パンフレット

④ ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用の促進

先人の苦難と栄光の足跡に多くの教訓を得ながらまちづくりを進めて来た本町には、たくさんの貴重な文化財や史跡などがあります。開拓記念館や泉記念館をはじめとする拠点施設を中心に、文化財の保存・保護に力を尽くしている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。

また、栗山町内史跡パンフレット

① 図書館を生涯学習の重要な拠点とする事業の推進

平成 23 年度策定の「栗山子ども読書推進計画」に基づき、これまで培ってきた小中学校との協働をさらに強めて栗山の子の読書活動を充実させます。また、備品の継続的な整備を図り、「町民により身近な図書館づくり」に努め、町民の読書活動推進に尽力します。

② 芸術文化振興の環境づくりと主体的町民活動への支援

栗山には、町民主体の歴史ある鑑賞事業をはじめとする芸術・文化事業が数多くあります。町民の自主的・主体的な芸術文化活動や芸術創造のまちづくり事業などへの支援をすることも、町民が気軽に芸術文化にふれることができるよう、文化連盟などの関係団体と連携・協働し、その環境づくりに努めます。

③ ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用の促進

先人の苦難と栄光の足跡に多くの教訓を得ながらまちづくりを進めて来た本町には、たくさんの貴重な文化財や史跡などがあります。開拓記念館や泉記念館をはじめとする拠点施設を中心に、文化財の保存・保護に力を尽くしている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。

また、栗山町内史跡パンフレット

④ ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用の促進

先人の苦難と栄光の足跡に多くの教訓を得ながらまちづくりを進めて来た本町には、たくさんの貴重な文化財や史跡などがあります。開拓記念館や泉記念館をはじめとする拠点施設を中心に、文化財の保存・保護に力を尽くしている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。

また、栗山町内史跡パンフレット



さまざまな作品がならぶ芸術祭

⑤ ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用の促進

先人の苦難と栄光の足跡に多くの教訓を得ながらまちづくりを進めて来た本町には、たくさんの貴重な文化財や史跡などがあります。開拓記念館や泉記念館をはじめとする拠点施設を中心に、文化財の保存・保護に力を尽くしている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。

また、栗山町内史跡パンフレット

以下、2 つの方針で臨みます。

① スポーツ・レクリエーション活動の振興とスポーツ団体等の育成・支援

学校体育施設の有効活用、幼児対象のキッズ運動塾から老若男女対象の全町ソフトボール大会まで、本町で年間を通じて多彩に展開される各種スポーツ行事への開催支援、スポーツ少年団をはじめとするスポーツ団体などの育成、総合型地域スポーツクラブへの支援、スポーツ推進委員や指定管理者との協力による町民健康増進機会の提供、スポーツ教室の開催をはじめとする各種事業などを推進します。また、パークゴルフ場の一層の整備に努めます。

② スポーツ合宿の受け入れ体制づくり

体育施設の整備を図り、町民の参加拡大を目指すとともに、スポーツ合宿団体への支援を継続します。

③ ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用の促進

先人の苦難と栄光の足跡に多くの教訓を得ながらまちづくりを進めて来た本町には、たくさんの貴重な文化財や史跡などがあります。開拓記念館や泉記念館をはじめとする拠点施設を中心に、文化財の保存・保護に力を尽くしている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。

また、栗山町内史跡パンフレット